



2018年の世界の大規模火災

海外消防情報センターでは、1970年以降に発生した世界の大規模火災について基準を設け、類別別に整理してホームページ上で公表している。

ここでは、2018年に発生した主な世界の大規模火災について、簡単にまとめてみた。

1. ベトナム ホーチミン市における高層マンション火災

2018年3月23日午前1時30分ごろ、ホーチミン市の高層マンション「カリナ・プラザ」で火災が発生した。この火災により住人13人が死亡するとともに、地下駐車場に停まっていた340台のバイクと17台の自動車が発火した。

火災の原因は、当初、爆弾を仕掛けられたとの見方もあったが、その後の調査でバイクの電気ショートが原因と断定された。

死者が多数となったのは、火災の発生が深夜で多くの住人が就寝中であったこともあるが、火災の発生を知らせるサイレンが鳴らなかったこと、自動消火装置と避難誘導システムが稼働しなかったこと、各階の階段室に設置されていた防煙扉がいずれも煉瓦で押さえられ開いたままの状態になっていたため、

火災発生時に避難ルートとなるはずの階段に煙が充満してしまったことが原因と考えられる。実際、死者の多くは上の階へ避難しようとして階段で煙に巻かれ窒息死したとみられている。

このことを受け、ホーチミン市警察は同マンションの投資主のフンタイン社の元社長と消防システムの運営を受託していた同マンションの管理委員長を消防規定違反で逮捕したとのことであるが、改めて消防設備の普段の点検がいかに重要かということが理解される。

なお、高層マンションの大規模火災としては、2017年6月にロンドンで発生したグレンフェル・タワー火災が知られている。死者が70人にも及び、第二次大戦後のイギリスにおける最悪の火災となった同火災の原因等については、東京理科大学大学院の関澤教授の優れた分析があり、当センターのホームページで和文及び英文で紹介している。

2. ロシア ケメロヴォ市のショッピングセンター火災

2018年3月25日、西シベリアのケメロヴォ市のショッピングセンターで火災があり、この火災で

64人もの死者が発生した。しかも犠牲者のうち41人は子どもであった。犠牲者の多くはショッピングセンター内に設けられた映画館でアニメを見ていたようだ。

この痛ましい火災は、子どもの火遊びが原因とみられているようであるが、被害がここまで拡大したのは、火災警報システムの故障が放置されていたこと、組織的な避難誘導がなされなかったことに加え、チケットを買っていない客が映画館に入らないようドアに鍵が掛けられており、子どもたちが逃げ出せなかったためである。

当日は学校が春休みに入って最初の日曜日であったことから、親子連れの買い物客が多く、ショッピングセンター内の映画館にいつもより子どもの数が多かったことも仇となった。

火災発生から2日後には、プーチン大統領が非常事態相らとともに現地を視察、翌28日は全ロシア服喪の日とされ、モスクワをはじめ各地で追悼集会が開かれた。なお、このケメロヴォ市の火災では、ケメロヴォ州の建設監督局の審査局長ら責任者と施設関係者の計7人が捜査当局に拘束され、州知事も4月1日に引責辞任したと伝えられている。

施設の入りに鍵が掛けられていたために大惨事がもたらされた火災の例は枚挙にいとまがない。1994年には、中国の新疆ウイグル自治区カラマイ市の観劇会場で、非常口が施錠されていたために避難ができず、観劇中の教師、生徒あわせて325人が焼死している。また、2004年、バラグアイの首都アスンシオン市の大型ショッピングセンターでの火災の際には、商品の持ち逃げを防ぐため出口の扉が閉められ、394人もの犠牲者が発生している。

3. ブラジル リオデジャネイロ市の国立博物館火災

2018年9月2日夜、リオデジャネイロ市の国立博物館で火災が発生し、同博物館はほぼ全焼した。火事は博物館が閉館後に起きたこともあり死者こそなかったものの、貴重な収蔵品の9割が灰燼に帰したとみられている。

博物館の建物は、もともとポルトガル王家の邸宅として建設され、ブラジル独立後は皇帝の宮殿とし



ロシアケメロヴォ市のショッピングセンター火災 犠牲者を追悼する人々

で使用されていたという。建物自体が歴史的にも重要な建築物であった。その後、建物は博物館に改装され、その規模は南米で最大級と言われ、収蔵品は2,000万点あり、中にはブラジル固有の恐竜の骨格などの貴重な資料が数多く含まれていた。

火災の原因は電気のショートとみられるが、紙製の小さな熱気球の落下（ブラジルだけでなく台湾やタイ、ミャンマーなどでも祭り等の際に紙製の熱気球を打ち上げることがあり、これが火災の原因になることも少なくないようだ。）によるのではないかとの説もある。

同博物館は建設されて200年が経過し、老朽化が進んでいた。財源不足のため設備等の改修は不十分だったと言われているが、そもそも建物内には防火扉もスプリンクラー設備もなく、かねてより複数の専門家から深刻な火災の危険性があると指摘されていた。火事の発災時には、火災報知機が機能せず、消火栓は水圧不足で、消防隊は建物の外の池の水を利用せざるをえなかったと報道されている。

なお、皮肉なことに、6月に承認された予算には同博物館の近代化計画が含まれており、その中には最新の防火設備の設置費用が措置され、10月の大統領選挙後には工事が実施される予定であったとのことである。

ブラジルでは、2015年にもサンパウロ市中心部の歴史的建造物を改装したポルトガル語博物館が全焼する火災があったが、世界的にはこうした事例は極めてまれで、国立クラスの大規模な博物館や美術館の火災はほとんど前例がないようだ。貴重な文化財や美術品を後世に伝えるための防火・防災対策の重要性が、関係者の間に強く認識されているためである。

4. コンゴ民主共和国 タンクローリー爆発事故

2018年10月6日、コンゴ民主共和国（旧ザイール）でタンクローリーが他の車と衝突、横転した。その際、漏れ出したガソリンが爆発し、事故を聞きつけて集まってきた付近の住民（漏れたガソリンをすくい取るうとして集まってきたとも言われている。）50人以上が死亡する惨事となった。同国

では、2010年にもタンクローリーの横転・爆発事故があり、この時も集まってきた住民に少なくとも230人を超える死者が発生したと報道されている。

アフリカでは、ナイジェリアやケニアでも同様の惨事が発生しており、2017年にはパキスタンでも、タンクローリーの爆発事故に多数の付近住民が巻き込まれている。危険事故の際の立ち入り規制が、住民の意識も含めて徹底していないことが原因と考えられる。

欧米では、1978年にスペインのカタルーニャ州のキャンプ場付近でプロピレンを過剰したタンクローリーが爆発し、キャンプ場に来ていた客など217人が焼死するという大惨事（ロス・アルファケス大惨事）が発生している。

日本では2008年に首都高速5号池袋線熊野町ジャンクションでタンクローリーが横転し、死者はなかったものの積み荷のガソリン等が5時間半にわたって炎上し、その高熱で道路構造物に大きな損壊を与え、完全復旧までに2カ月半を要したという事故が発生している。また、この事故では、多額の損害賠償が話題となった。

なお、事故現場に付近の住民等が集まって、大きな災害が発生した事例としては、タンクローリー関連ではないが、1970年に大阪で発生した天六ガス爆発事故（死者79人）が知られている。

5. ギリシャ アッティカ地方とアメリカ カリフォルニア州の山火事

2018年は地中海沿岸やアメリカのカリフォルニア州など世界各地で山火事が頻発した。7月にギリシャのアッティカ地方（アテネ市とその周辺）で発生した山火事では、折からの強風にあおられて火が急速に燃え広がったため、アテネ市近郊のリゾート地マティを中心に死者の数は92人にものぼった。ギリシャにおける山火事による死者の数としては2007年の死者数を上回り、史上最悪となった。火事の原因は放火とも言われている。

アメリカのカリフォルニア州でも、7月から8月にかけて大規模な山火事が発生したが、11月に入り、さらに深刻な山火事が続発した。このうちサン



ブラジル リオデジャネイロ市の国立博物館火災

フランシスコ市北方のビュート郡での山火事は、鎮火に17日間を要し、その間、死者の数は85人に達し住宅1万3,000棟が焼失し、いまだに200人以上の住民と連絡がとれていないと報道されている（2018年11月25日現在）。また、同時期に、ロサンゼルス市郊外のベンチュラ郡でも山火事で3人の犠牲者が発生している。

カリフォルニア州では年平均して8,000件以上の山火事が発生しており、火災の規模も極めて大きい。今回のビュート郡の山火事では焼失面積は620km²に達しており、これは東京の山手線内側の面積のほぼ10倍にも及ぶ（ちなみに2017年12月の同州での山火事では焼失面積はさらに大きく東京都の面積の約半分の1,141km²であった。同年10月の火事では40人が死亡し、スヌーピーの作者の自宅が焼失して話題となった）。日本では瀬戸内沿岸地域で山火事が発生することが多いが、その最

大規模は300~400ha（3~4km²）であり、その規模の違いとその大きさに改めて驚く。

世界的に見ると、ギリシャなどの地中海沿岸地方、カリフォルニアなどの北米太平洋岸、チリなどの南米太平洋岸、オーストラリア南東部などが山火事の頻発地帯だと言える。住民の少ない地域では自然鎮火を待つしかないところもあるようだ。

6. その他

これ以外にも、2018年1月に上海沖でタンカーと貨物船の衝突事故があり、タンカーが炎上・漂流し、同船の乗組員32人全員が死亡した（「世界の主な大規模火災」に登載済み）。また、同年1月26日には韓国慶尚南道で病院火災が発生、高齢の入院患者47人が死亡するという痛ましい火災があった（「世界の主な大規模火災」に登載済み）。